

高校生向け起業家育成事業 開催報告

(高校生向けビジネススクール 2025)

- 1. 開催日時：**
- ・プレセミナー(7/18(金) 14～16 時)
内容：「起業の魅力とは」「ビジネスプラン作成プチ体験」他
 - ・本講第 1 回(7/24(木) 13 時～16 時 30 分)
内容：「若手起業家講演」「ビジネスアイデアの考え方」他
 - ・本講第 2 回(8/4(火) 13 時～16 時 30 分)
内容：「お金のしくみ」「昨年受講生からの講演」「コンテスト準備」他
 - ・フォローアップ (8/19(火))「発表に向けた自習/個別相談会」
 - ・ビジネスプランコンテスト(8/25(月)13～17 時)

2. 参加者数：13 名 (3 年生：10 名、1 年生：3 名)

参加者内訳

兵庫県立武庫荘総合高校 8 名
尼崎市立双星高校、雲雀丘学園高等学校、大阪女学院高校、
関西大学第一高等学校、兵庫県立稲園高校 各 1 名
(※双星高校 1 名はプレセミナーのみ参加)
(※小田高校から 2 名申込があったものの、申込後辞退)

○申込理由・経路

家族の勧めで参加、学校で配布されたチラシを見て将来起業に興味があったため、
授業の一環、AO 入試に活用するため など

3. 内 容：

【プレセミナー (7/18)】

メイン講師の中小企業診断士・小川氏から、ビジネスの基本的な考え方について説明をした後、ビジネスを考える体験として、自転車店などを例にアイデアの出し方についてグループワークを行った。

【ビジネススクール本講第 1 回(7/24)】

「若手起業家講演」として訪問看護事業を営む(株)あふリズムの中川氏から創業に至った経緯や創業の楽しさ・苦労などをお話いただいた。その後、プレセミナーに引き続き小川氏よりビジネスや創業にあたってステップについてグループワークを行った。

【ビジネススクール本講第 2 回(8/4)】

ゲスト講師として、日本政策金融公庫創業支援センターの津田氏をお招きし、損益分岐点や数値計画の立て方についてワークを交えながらお話いただいた。

また昨年受講者で発表会 1 位になった谷口さん(武庫荘総合高校卒業生・現関西大学 1 回生)から、昨年受講した感想や 1 位となった実績をどう受験に活用したかということをお話いただいた。

【自習会 (8/19)】

希望者のみの参加で、ビジネスプランコンテストに向けてプランをブラッシュアップしたい学生の個別相談会を行った。8 名の学生が参加。メイン講師の小川氏や日本政策金融公庫の津田氏より各プランのアドバイスを行った。

【ビジネスプランコンテスト(8/25)】

参加者12名からビジネスプランの発表を行った。尼崎市、尼崎信用金庫、日本政策金融公庫、商工会議所、谷口さん(昨年受講生)が審査を行い、1～3位の表彰を行った。

- 1位：LGBTQの中高生向け相談サービス（武庫荘）
 - 2位：高齢者向け死ぬまでにやりたいことをかなえるサービス（武庫荘）
 - 3位：試食代行サービス（大阪女学院）
- が受賞。

【受講者からの感想】

- ・発表までできたことで達成感を得ることが出来た
- ・学校では学べない起業やお金について講義を聞いたのはとても価値があったと思う
- ・実際に社長の意見を聞いたり、生徒の発表を聞いたりしてたくさん学べたと思う
- ・大学生になったら起業を予定している。



【プレセミナー】
ビジネスアイデアの発想方法を学んだ



【ビジネススクール第1回】
若手起業家講演



【ビジネススクール第2回】
昨年受講生の講演



【ビジネスコンテスト】
プラン発表



【ビジネスコンテスト】
プラン発表



【ビジネスコンテスト】
集合写真

【発表されたビジネスプラン】

- ・死ぬまでにやりたいことをかなえるサービス
 - ・睡眠用ヘルメットの開発
 - ・LGBTQ 向けサービス
 - ・イベントや災害時に利用する移動型トイレ
 - ・自宅でペットを飼えない人に向けたペット預かり施設
 - ・勉強を相互に教えるアプリ
 - ・宿泊もできる学生向け自習室
 - ・勉強や仕事の計画作りを手伝ってくれる AI アプリ
 - ・試食代行サービス
- など

4. 次年度以降への改善点・反省点

①開催形式

昨年まで発表は行っていたが、今年から発表を「コンテスト」に変更し表彰を行う形式に変更した。コンテストの実績がA0入試にも使えることもあり、入賞目的に受講した生徒も数名あった。コンテストまで出場したことで発表を終えて達成感を感じたという生徒も多くいたため、この形式を次年度も続けたい。

②高校への周知について

各学校によって、全校生徒へ配布いただける高校とチラシ設置のみの高校に対応が分かれている。武庫荘総合高校以外からは、申込ベースで、R5年3名、R6年5名、R7年7名と徐々にではあるが増加傾向。今回の受講生や関係機関の方からは、大学生も参加可能とし、参加者枠を広げてはどうかとの提案をいただいた。

以 上